

刎頸の友、郭沫若と成仿吾のふれ合いについて(上) 【サマリー】

齊藤孝治

1928年、国民党に追われた郭沫若は、千葉県市川の真間下に逃れ、二軒の借家を転々とした後、同じ市川の須和田に自己資金で自前の家を造り、苦難ながらそこで7年間も過ごしました。

収入が少ない郭沫若にとってその建設資金600円を捻出することは不可能に近い業でした。

その窮状を手助けしたのは、旧制六高以来の親友、成仿吾の無私の友情と好意でした。

本文は、この聞かれざる逸話を紹介したものです。